

第1回裾野市総合計画等評価委員会 質疑・意見に対する回答・対応表

No	質疑または意見	発言委員	回答・対応
1	基本計画評価の流れは理解した。一方で市長戦略のなかにも個別事業が上げられているが、この内容をにらむ必要性はあるのか。 評価においては基本計画の進捗状況の管理を目指すべきか。あるいは追加された市長戦略を踏まえて、具体的な指針や政策の盛り込みに関する意見を提出した方がよいのか。	藤井 敬宏	総合計画と連動して進む取組もあるが、細かく歌うべきが精査し、整合をさせながら盛り込みたい。 【補足】 今回評価をお願いするのは「第5次裾野市総合計画前期基本計画」のため、市長戦略に関する評価・意見は不要。
2	資料5をみると、各施策への評価や今後必要な取組の洗い出しが、裾野市内部ですで行われているとわかる。これらのうち、我々委員は自らの専門領域について判断することになると思うが、その際に市長戦略と紐づいている要素の有無を確認したい。例えばある点について、市長戦略とキーワードを通して重なっている、といったことがわかれば、事業の良し悪しや継続の適否に関する判断がしやすい。そういった市長戦略との関連を明示する作業を事務局をお願いしたい。	藤井 敬宏	皆さんから意見をいただき、どのようなかたちで（市長戦略を）取り入れていくべきかと言う事も踏まえて、委員の皆様がより作業しやすい、評価しやすいようにしていきたい。
3	評価の記入に際し、電子ファイルがほしい。	山本 睦	データで送付する。
4	達成度が小文字、今後の方向性が大文字のアルファベットで書いてあるが、達成度はどこを見ればいいのか。	市川 加代子	それぞれのアルファベットの意味を資料3および資料4の55ページに示している。55ページ以降には、達成度と今後の方向性を掛け合わせた一覧が記載されている。こちら合わせてご確認ください。
5	資料4のクロス集計を頭の中でイメージして評価しろというのは現実的ではない。例えば資料4の7ページの「成果指標」についてみたときに、これが各クライテリアの達成度評価にどう繋がっているのか全く分からない。どこかで△、○という評価が行われているのだと思うが、数字はどのように加工されているのか。また2023年度の小学生と中学生の実績値が記載されているが、そのパーセンテージの値が前の資料と全くつながっていない。さらにクロスを見て下さいと言われたが、一覧を見ても理解できない。もう少しシンプルにここを見て下さい、とやっていただかないと答えられない。そのあたりをご検討頂きたい。	藤井 敬宏	各事業すべてを評価した箇所と、各大綱や柱、政策が一緒になっており、わかりにくい点があるのはご指摘の通り。事務局でもう一度検討して、皆様にわかりやすい形で示したい。 【補足】 「成果指標の評価」の△、○の評価は、2ページの凡例で示す、令和5年度時点の実績の達成度を表したものだ。 「施策の柱」の評価を記入する際は、成果指標の評価を見ていただき、「施策実現の手段（基本事業）の評価」と「主な取組の評価」は、参考情報として見ていただきたい。

No	質疑または意見	発言委員	回答・対応
6	資料3について質問したい。大綱1に関して、子育て世帯の支援に対する市民満足度の実績が示されているが、この分母は全市民なのか。全世帯数のなかで子育て世帯はだいたい何%かという数字がないと、直接関係する人と関係しない人がいるため、9.1%という数字が何を示しているのかわからなくなる。 大綱2に関して、一人当たりの市民所得額があがっているからOKとなっているが、ご存じの通り物価が上がっているの、その上がり方と比べてどうなのかというところが検討されないと評価が出来ないのではないか。	山本 睦	一点目については、市民を無作為抽出して調査している。子育て世帯だけに聞いたわけではない。所得についても、上がっていくのが通常であるから、それだけをもって〇（マル）として良いのか、ということはご指摘のとおりであり、これらの点に関する評価内容は再検討したい。
7	項目が多岐にわたるため、クロス集計にもとづいて、達成度が高く、また拡大の方向性が示された項目については市がやるべきもの。ここに入らないものについて委員で議論すべきではないかと考える。例えば委員による議論の対象を、達成度や方向性が低く現れた項目に絞るというのも一つと考える。全項目議論するとなると1か月では足りない。 また山本委員の指摘のとおり、所得額は1～2%程度しか上昇していないので、物価上昇率より低い。ここは指標の見直しが必要と考える。	飯塚 尚司	いただいたご意見を参考に検討したい。
8	根本的なところだが、そもそも413項目は多すぎるのではないか。いろいろな考えの中で項目を作ったのだろうが、項目が多いとそもそも大綱がぶれてくる気がする。これはこれで走っているのしょうがないが、後半戦については絞って意見を交わした方が良いのかなと思う。もう少しシンプルにわかりやすくしてほしい。	長谷川 好一	全体で330個の取組みがある。その中には、いわゆる複数課にまたがる取組も含まれる。それらについてはそれぞれの課による評価を別に示しているため、評価数は取組数よりも多い413となっている。 【補足】 内部では前期基本計画全体を評価するため、計画に記載している「施策実現の手段（基本事業）の評価」と「主な取組の評価」すべてについて評価しており、数が多くなっている。
9	今の413という項目数に関して、複数の課にまたがっている項目は、合算した評価になる、ということで良いか。 2重評価、多重評価していることで、同じ項目でもそれぞれの課により視点が違うため、達成度の考え方が異なり評価も変わると思う。そのあたりはどうか。	藤井 敬宏	外部評価をお願いしたいのは、「施策の大綱ごと（5つ）」および「施策の柱ごと（32本）」である。 進捗を押し量るために、施策の大綱の基本目標の実績値と、施策の柱の成果指標の実績値を見ただけが、評価の際には大綱・柱ごとの実際の取組状況を知っていただく必要があると考え、評価の参考として内部評価を資料3～5にまとめている。

No	質疑または意見	発言委員	回答・対応
10	さきほどの大綱 1 の評価指標の調査結果について、27.7% が9.1%に低下した理由について質問項目を変えたと述べていたが、これは妥当か。なぜ質問を変えたのか。	市川 加代子	市の市民意識調査の設問による。
11	こうした結果を比較対象として同列に記載するならば、かなり説明が必要ではないか。	市川 加代子	その通りだと思う。これらを並べて評価するのは難しいと思っている。9.1%となっている理由は表を載せた以上説明したい。そもそも載せるべきなのか、という点も検討したい。
12	市民意識調査の結果と、各部署の自己評価が両方含まれているとのことだが、それらはどこで分かれ、あるいはどこで一緒にされているのかわからない。どこを参照すればよいか。 また413にわたる項目を市民意識調査で答える人がいるのか。 担当課や部署による自己評価は大事で、それを市民に伝えるのも大事だが、2023-2024という年度が対象になることについては、現市長になってからの評価が欲しいのではないか、という穿った見方をしてしまった。そうした意図がこれらの資料に含まれているとしたら、我々が今後やることの方方向性が決まってしまう気がする。	杉山 千恵	市民意識調査は413の項目すべてについて実施しているわけではない。子育てや地域生活に関する満足度などを聞いている。 基本計画については前期がすでに実施中であり、残りは1年と少し。今作ろうとしているのは後期の基本計画である。基本構想の該当期間は10年間であることから、後期計画でもこれを守っていくかたちになる。後期計画をつくるために今皆様の意見を聞いて準備している段階である。この基本構想にもとづいて、前期をまず振り返って評価をしたところで、後期の計画を作成したい。
13	無作為抽出の意識調査ということだったが、分母はどれくらいの数か。	渡邊 昌志	R5年に実施した市民意識調査においては、市内在住の満18歳以上1,200人が対象で、有効回収率は60.5%、回答数は726件であった。

No	質疑または意見	発言委員	回答・対応
14	達成度と今後の方向性のクロス集計表を見ると、ここには有意な結果が現れているように見えるが、達成されているにも関わらずこれから拡大していく傾向の方が強くなっている。一方で達成度が低いものに関しては、これから拡大するという意向が弱い。この拡大や縮小といった方向性はこういった基準で求めているのか。達成しているのならば拡大する必要がないのではないか。	山本 陸	評価の仕方については検討し、改めて作業をお願いする形になる。飯塚委員からいただいたところも含めて、評価を見やすくすることも検討する。 今回資料を細かく出させてもらったが、市でこういう評価をしているというもの。資料はそのまま持ち帰っていただき、お気づきの点がありましたらいただければと思う。
15	そこ（上記質問）は先ほどの指摘に関連しており、それ以外のところを議論すれば、この評価の本質が全部出てくることになる、藤井先生の質問に対する答えは、そこを議論するのではなく抜けているところだけ議論すれば、市がどう分析したのかというポイントが見えてくるのではないか。逆にその分析がおかしければ、最初のクロス集計自体を見直すことになるので、その見極めがスタート地点かと思う。すべての項目をレビューするとなると負荷が大きい。	飯塚 尚司	
16	千葉県の3つの自治体の総合計画策定に関わっているが、そこでも総合評価（全体の評価）、前回の状況確認、中間年評価、全体計画の評価をしている。裾野市のように評価委員会を別に組織するということはしていない。策定協議会の中で、現況にどういった問題があるかを洗い出して、計画策定に入っていく。裾野市では、策定協議会とは別の評価組織によって現状計画の履行状況を確認し、到達点を評価し、その中で明らかになった課題を後期計画の策定協議会に伝達することになっており、この段階的な運用方式はすごく良い。足りない部分はどこなのか、ポイントを絞って各委員に見えるようにしてもらいたい。委員の専門分野もいろいろである。各委員にどこを注力して見てもらいたいのか明確にすべき。市としての各項目に対する達成度認識や進んでいない項目のリストを出し、優先度や不足箇所に関する判断を求めるのならわかる。我々は分析までではない。413項目すべてに対してではなく、全体の中の限られた部分についてコメントを求めるような依頼の仕方をしてほしい。	藤井 敬宏	
17	宿題は12月25日までか。	杉山 千恵	

No	質疑または意見	発言委員	回答・対応
18	山本委員から指摘にもあったが、評価指標や母数などが問題になる項目もあるかもしれない。私の担当範囲に関わるものもあるかもしれない。裾野市側で、評価に困った等のポイントがあれば、そこが開始点になるかもしれない、そうした情報も出してほしい。	飯塚 尚司	そういったところも分野ごとに出させていただきます。
19	付随して、なぜ必要かを書くのならわかるが、予算がないから縮小という説明はおかしい。	市川 加代子	確認させていただく。 【補足】 予算がないから縮小という記載はなく、財源確保が課題ではあるが、取り組みを継続したいこと（1-2-(1)-①）、複数の課が担当する取組について予算面はもう一方の部署が担当すること（3-3-(4)-②）、予算を調整して他の策を検討したいこと（5-1-(1)-①）、予算を持たなくとも効果が出ていること（5-2-(1)-③）、予算を確保して重点施策に取り組みたいこと（5-2-(1)-④）、効果的に取り組むために予算を確保したいこと（5-4-(1)-②）を確認した。